

ヒト・家畜の糞便，鶏肉および院内環境などからの ESBL 産生菌の検出

保健科学課 麻生嶋 七美・松田 正法・徳島 智子
吉澤 千尋・本田 己喜子・樋脇 弘
食肉衛生検査所 小西 智子・馬場 由紀子・丸山 浩幸

第 70 回公衆衛生学会総会

院内感染の原因菌である基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ (ESBL) 産生菌の浸淫実態を明らかにするために、実態調査を行った。今回、健康者の糞便 249 検体、福岡市と畜場に搬入された牛・豚の直腸便それぞれ 100 検体、市販鶏肉 60 検体、A 病院の臨床分離株 34 株、同病院における院内環境の拭き取り 44 検体および 2000～2009 年の間に当研究所で分離された患者由来 EHEC 220 株 (O157, O26) と赤痢菌株 70 株の計 290 株を供試した。検査の結果、77 検体 79 株の ESBL 産生菌が検出された。健康者や牛・豚の糞便からの ESBL 産生菌の検出率は 4%～7.2%であったが、鶏肉では 25%と高く、これら分離株の大半は *Escherichia coli* であった。A 病院の院内環境からは ESBL 産生菌は検出されず、臨床分離株 34 株は、*Citrobacter koseri* , *E. coli* が多かった。当研究所で分離された EHEC および赤痢菌株からは、*Shigella sonnei* 2 株のみ検出された。遺伝子型別の結果、CTX-M-14 および CTX-M-15 が健康人、牛、豚、鶏肉から共通して検出された。また、鶏肉では SHV-12 も多く検出された。臨床分離株では菌種ごとに異なったグループ型が検出され、*S. sonnei* 2 株は CTX-M-15 であった。